



「効率的な歩行空間ネットワークデータ等の 整備に向けた手引き」の改訂

令和3年4月

政策統括官付



- 地方公共団体が実施するバリアフリーマップ作成時等に行う「バリアフリー調査」に合わせて歩行空間ネットワークデータ等の整備を促進することを目的に手引書を作成
- 手引書は、主に市区町村のまちづくり部局、福祉部局、観光部局等バリアフリー施策に関連する取組を実施している部局を対象としており、ガイドラインの「データ作成」の項目を自治体の既存施策との連携により、効率的に整備する視点から補完

オープンデータを活用した歩行者移動支援サービスの取組に関するガイドライン（2018.7）

○市区町村等が各地域で実際に取組みを進める際の参考とできるように、歩行者移動支援サービスの意義や導入までの手順や考え方など一般的な内容を記載

歩行者移動支援サービスの取組に必要な基本的な事項を記載



歩行空間ネットワークデータ等整備仕様（2018.3）

○歩行者移動支援サービスの提供に際し、重要な役割を担う「歩行空間ネットワークデータ」と「施設データ」の整備内容と構造を定めたもの。

補完

効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に関する手引き

- 歩行空間ネットワークデータ等のデータ整備推進を目指し、市区町村が歩行空間ネットワークデータ等の整備を効率的に行うための手引書
- 市区町村が実施しているバリアフリー調査※¹等の既存施策と連携することにより、歩行空間ネットワークデータ等を効率的に整備する方法について実証を通じて確認した具体的な方法を記載

※¹ 移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の策定・改定並びにバリアフリーマップや観光マップ等の作成に向けて実施する、歩行経路や公共施設等のバリアフリー状況を確認するための調査



- 地方自治体が歩行者移動支援サービスに取り組む際に円滑に事業を遂行できるよう、本年度の現地事業(香川県高松市、福井県鯖江市)で得られた課題や解決策、取り組み方法を手引書に反映
- 歩行者移動支援サービスの普及促進に向けて、現地事業で得られた歩行空間ネットワークデータを活用した新事例を紹介

2019年度の手引書

手引きの
対象・目的

データ整備の
メリット・課題・
効率的な整備
方法

ネットワークデータ整備方法

- バリアフリー調査と連携した整備
- 観光地への誘導を目的にした調査対象路線の考え方 等

施設データ整備方法

- 既存のバリアフリー情報と連携した調査手法
- 調査票配布による整備事例 等

データ活用案・事例

- 道路・観光・防災分野等へのデータ活用方法案
- 現地事業でのデータ活用事例 等

他自治体の参考となる知見・ノウハウ等を追加

2020年度の改訂ポイント

① 現地事業で示された歩行者移動支援サービスの実現に向けた課題・対策・取組方法を手引書に反映

- 地域のニーズを踏まえた歩行空間ネットワークデータの情報項目の整備事例
- 施設データ整備ツールを利用した行政職員による施設データ整備事例

等

② 歩行空間ネットワークデータ等を活用した新事例および活用案の紹介

- 既存のオープンデータと新規整備した歩行空間ネットワークデータを活用した、災害種別に応じた避難経路検討事例
- 都市再生計画立案に向けた、歩行空間の定量的な移動環境評価
- 高等専門学校の学生による歩行空間ネットワークデータアイデアソンの結果

等



- 歩行空間ネットワークデータ等をバリアフリーマップ作成に活用するだけでなく、現地実証を踏まえ明らかとなった都市計画や防災分野への活用方法・ノウハウ等を追加し、手引書の充実を図る
- 歩行空間ネットワークデータ等の作成に利用できる整備ツールの紹介や教育機関が主体となりデータ整備を実施した取組等を掲載し、多様な主体がそれぞれの目的に応じたデータを主体的に整備する場合に参考となる手法や考え方等の記載充実を図る

構成	記載内容	主な追加・改訂内容
<p>1章 はじめに</p> <p>1-1.手引きの目的と対象</p> <p>1-2.手引きの位置づけ</p> <p>1-3.手引きの構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者移動支援サービスで目指す環境、手引きの目的や想定する利用者について示す。 ● 本手引きと関係するガイドラインとデータ整備仕様書の関係性を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 手引書の対象者に「防災・都市計画への活用」の視点を追加
<p>2章 歩行空間ネットワークデータ等の効率的な整備にむけて</p> <p>2-1.歩行空間ネットワークデータ等を整備するメリット</p> <p>2-2.歩行空間ネットワークデータ等の整備に向けた課題</p> <p>2-3.歩行空間ネットワークデータ等の効率的な整備に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリー調査と連携して歩行空間ネットワークデータを整備するメリットと課題を示す。 ● 歩行空間ネットワークデータを整備・メンテナンスするための工夫を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行空間ネットワークデータの効率的な整備方法として、歩行空間ネットワークデータ整備ツール及び施設データ整備ツールによる調査方法を追加



構成	記載内容	主な追加・改訂内容
<p><u>3章 歩行空間ネットワークデータの効率的な整備方法</u></p> <p>3-1.バリアフリー調査との連携 3-2.調査路線と調査項目の検討 3-3.調査図面の準備 3-4.現地調査 3-5.調査結果のGISデータ化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 経路のバリアフリーデータを作るための手順と各手順の具体的方法、考え方のポイントを示す。 ● 実際に歩行空間ネットワークデータを整備した自治体を実施した際の、考え方や作成した資料を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のニーズを踏まえた歩行空間ネットワークデータの情報項目の取得事例集を追加 <ul style="list-style-type: none"> □ バリアフリー対応の道路改良に向けた誘導ブロックGIS規格適用状況 □ 避難経路の検討に向けたブロック塀・マンホール情報の取得 □ 路面状況と経路構造を考慮した「経路の状況」の取得 ● 福井工業高等専門学校による歩行空間ネットワークデータの整備事例を紹介
<p><u>4章 施設データの効率的な整備方法</u></p> <p>4-1.バリアフリー調査との連携 4-2.対象施設の選定 4-3.調査項目の選定 4-4.調査票の作成と配布 4-5.取りまとめとデータ変換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設のバリアフリーデータを作るための手順と各手順の具体的方法、考え方のポイントを示す。 ● 実際に従来のバリアフリーマップ更新にあたり歩行空間ネットワークデータ等に対応したデータを整備した自治体の考え方や使用した調査票等を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のニーズを踏まえた歩行空間ネットワークデータの情報項目の取得事例集を追加 <ul style="list-style-type: none"> □ 既存の公開済みバリアフリー情報との連携事例 □ 地元障害者団体の要望に適応した情報の取得事例 □ 歩行者の移動環境評価に向けた詳細な位置情報等の取得事例 ● 過年度事業も含めて、データ活用方法に応じた調査対象施設の選定方法を整理
<p><u>5章 歩行空間ネットワークデータ等の多用途活用</u></p> <p>5-1.歩行空間ネットワークデータ等のオープンデータ化 5-2.多用途活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方公共団体が歩行空間ネットワークデータの利活用した事例や検討した利活用方法を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行空間ネットワークデータを住民向けに公開型GISたかまっぷで公開した高松市の事例を追加 ● 歩行空間ネットワークデータを利用して災害種別に応じた避難経路の検証を実施した福井工業高等専門学校の事例を追加 ● 福井工業高等専門学校で実施したアイデアソンを含め、過年度で得られた活用方法を再整理